

# 経済マンスリー

## [原油]

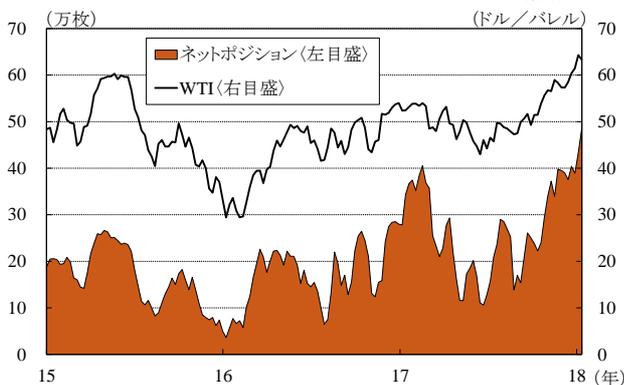
### 原油高に伴い広がる米シェールオイル生産拡大観測

原油価格（WTI 期近物）は、昨年 12 月中旬に北海油田の油送管故障、同月下旬にはリビアの油送管爆破による供給懸念の高まりを受けて上昇傾向を辿り、年末に 60 ドル/バレル（以下同）台をつけた（第 1 図）。1 月に入り、イランでの反政府デモに伴う地政学リスクの高まりや米国での寒波襲来を受けた需要増加等を受けて WTI はさらに値を上げ、12 日に 64 ドル台をつけた。その後 WTI はやや軟化したしたが、23 日の IMF の世界経済見通し上方修正等を背景に再び上昇し、24 日には 65.61 ドルと 3 年 1 ヶ月ぶりの高値となった。

昨年 12 月下旬以降、原油価格が上昇ペースを速めているのは、ベースとなる需給が改善している中で、地政学リスクの高まり等の需給タイト化につながり得る材料が相次いだためであるが、金融市場における“リスクオン”の動きが原油の買いを加速させた面もあろう。1 月 16 日時点の原油先物市場における投機筋の買い越しポジションは 2 週連続で過去最大を記録し、投資資金が先物市場に大きく流入していることを示している（第 1 図）。

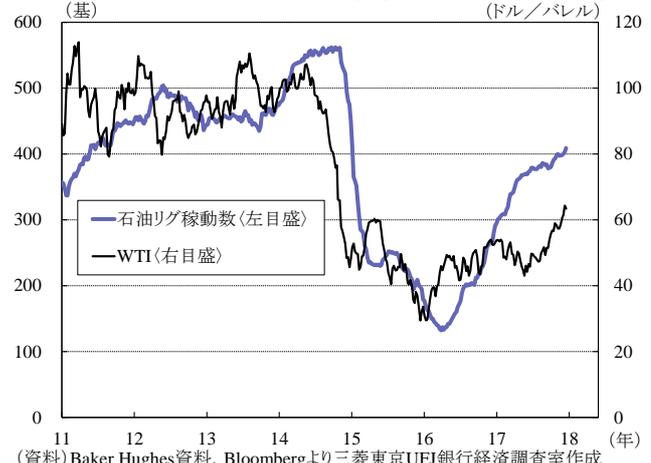
一方で、こうした原油価格上昇に伴い、米国シェールオイルの生産拡大観測が広がっていることも見逃せない。米石油リグ稼働数は 1 月 12 日時点で前週比+10 基と昨年 6 月以来の大幅増加となったが、翌週には同▲5 基と減少に転じるなど、やや足踏み状態にある。しかし、最大の生産地であるパーミアンのリグ稼働数は昨年 11 月以降増勢を強めており（第 2 図）、先行きシェールオイルの生産拡大ペースは速まる可能性が高い。需給バランスが再び供給過剰に転じることへの懸念が高まれば、積み上がっている投資資金が引き揚げられ、原油価格が大きく下落する場面もあり得よう。サウジアラビアのファリハ・エネルギー産業鉱物資源相は 1 月 21 日、「OPEC と非 OPEC 主要産油国は、協調減産が期限を迎える 2018 年末以降も生産面での協力を続ける必要性で一致した」と発言したが、これは米国シェールオイルを意識しつつ口先介入によって供給過剰観測が台頭するのを牽制しようとするものと思われ、今後も OPEC 関係者から同様の発言が出る公算が大きい。

第1図: 原油価格と先物市場における  
マネー・マネージャーのネット・ポジションの推移



(注)マネー・マネージャーは、商品投資顧問や先物運用管理会社。1枚=1,000バレル。  
(資料)米商品先物取引委員会資料、Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図: パーミアンの石油リグ稼働数と原油価格の推移



(資料) Baker Hughes 資料、Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 篠原 令子 reiko\_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。